

高活協通信(2025年4月号)

発行：一般社団法人 高齢者活躍支援協議会

<http://www.agenomics.org>

◆◆◆高活協ニュース◆◆◆

■お知らせ

- 今月の“「定年後の仕事」情報欄”は、「年齢に関わりなく希望に応じて働くことができる環境の整備」です。
- 高活協ホームページを更新しました。
 - ・「高活協ホームページ」の URL は以下の通りです。

<http://www.agenomics.org>

高活協は会員の皆様に毎月 1 回「高活協通信」を配信させていただいております。この通信活動を会員の皆様と高活協とのコミュニケーションの機会とさせていただきたく考えております。つきましては、皆様のご意見や提供したい話題などがございましたら、本配信メールへの返信にてお寄せいただければ幸いです。

■2025年3月の主な活動

- 高活協は現在、比較的少人数の会議・イベント等、あるいは ZOOM 等を利用したオンラインの会議・イベント等を適宜実施しております。
- 2025年3月13日、高活協が加盟している高齢社会 NGO 連携協議会(高連協)の役員会が開催され、高連協 2025年度事業計画案などについて議論が行われました。高連協 2025年度事業計画案では、幕張メッセでのシンポジウム(日本老年学会との共催)などが予定されています。
- 2025年3月24日、高連協の総会が開催され、高連協 2025年度の事業計画案と予算案が承認されました。
- 今月の“「定年後の仕事」情報欄”では、「年齢に関わりなく希望に応じて働くことができる環境の整備」を掲載しました。
- 高活協ホームページの「アーカイブ」ページに、「高活協通信(2025年3月号)」を掲載しました。
- 2025年3月、生涯現役社会の実現に向けた行政や企業などの動向に関する情報収集を行いました。なお、「◆◆◆生涯現役社会の実現に向けてー トピックス ◆◆◆」のコーナーでは、“「定年後の仕事」関連情報”を適宜掲載しています。

◆◆◆高活協主催/共催イベントの紹介◆◆◆

■これまで高活協が主催した(共催含む)イベントの報告書/記録集

過去に高活協が主催・共催したイベント(シンポジウム、セミナー/フォーラム)の報告書や記録集は、高活協

ホームページの「高活協アーカイブ」ボタンをクリックしてご覧になれます。(ホームページは下記 URL)

<http://www.agenomics.org/>

◆◆◆高活協会員関連イベント等のご紹介◆◆◆

会員のご希望があればご紹介記事を適宜掲載させていただく予定です。

◆◆◆生涯現役社会の実現に向けて – トピックス◆◆◆

生涯現役社会は、「職業寿命」「社会活動寿命」「健康寿命」「資産寿命」という 4 つの寿命の延伸が相乗効果をもたらす社会、すなわち「それぞれの寿命の伸びが相互に他の寿命も伸ばす」という好循環がもたらされる社会です。そんな生涯現役社会の実現に向けた最近の動きを紹介していきます。

■ちょっとした話 – 高連協創立 25 周年記念の集い

2025 年 2 月 18 日に高活協が加盟している高齢社会 NGO 連携協議会(高連協)の「創立 25 周年記念の集い」が増上寺の慈雲閣で開催されました。記念の集いは、昨年 6 年ぶりに改訂された高齢社会対策大綱を巡る討論会(第 1 部)と、高連協加盟団体を中心とした交流会(第 2 部)の 2 部構成で行われました。第 1 部では、ゲストとしてお招きした辻哲夫医療経済研究・社会保険福祉協会理事長(元厚生労働事務次官)および黒瀬敏文内閣府政策統括官の講演に続いて、高連協加盟団体によるパネル討論が行われました。高活協からは「年齢に関わりなく希望に応じて働くことができる環境の整備」に関する提言を行いました。その内容は「定年後の仕事」情報欄に掲載しました。

■「定年後の仕事」情報欄

○2021 年 4 月から施行された改正高年齢者雇用安定法(=70 歳就業法)では、定年後の継続雇用だけでなく、継続的な業務委託や社会貢献活動への支援といった措置も選択肢になっており、高齢者の多様な働き方を後押ししています。

○今後このトピックスのコーナーでは、「定年後の仕事」に関連した情報を適宜掲載していきます。高齢者の就業を考える際の参考にしていただければ幸いです。

年齢に関わりなく希望に応じて働くことができる環境の整備

少子高齢化は人生設計の標準的なプランの見直しを迫っている。答えは生涯現役社会の実現にあるのではないか。生涯にわたり働くことは苦勞ではなく、社会との繋がり維持、収入の確保、さらには健康の維持にも寄与する。無理のない範囲で就労継続できる法整備・規制緩和が期待されている今こそ、生涯を通じたキャリア形成の新しい考え方が求められる。

まず「男は就労、女は家庭」ではなく、男も女も就労という考え方が標準になるべきであろう。その上で、「子育て」は家庭における男女共同の価値ある仕事と位置づけ、キャリア形成の妨げにならない仕組みが構築されるべきである。働き方も見直す必要がある。従来の日本の会社に多かった「メンバーシップ型」よりも、

キャリア形成に重きを置いた働き方が求められる。自分のスキルや得意なこと・好きなことは何かを見極め、それらをさらに磨いていくことが必要だ。そして高齢になっても自分が活躍できる領域を見出せるように準備をしていくべきであろう。定年退職などで会社のメンバーから外れた時こそ、その後の就労は基本的に「ジョブ型」である。自分のできる仕事に就き、自分の役割を果たすことによって生きがいを感じ、社会に貢献することがこれからの高齢者には求められる。

生涯現役社会を目指すには、まだまだ仕事の機会を大幅に増やす必要がある。特に高齢者の就労の仕方は多様である。自宅の近所、フルタイムではなく週に2日～4日程度。あるいは、午前中のみの勤務や土日だけの勤務など、フレキシブルな勤務条件に魅力を感じて働き、「幸せな老後生活」を実現している高齢者も多いようだ。そんな高齢者の仕事へのアクセスを飛躍的に高めるため、例えば自治体ごとに、ハローワークやシルバー人材センターだけではなく、民間人材会社の高齢者向け求人・求職情報やマッチングアプリ等の様々な高齢者向け仕事情報を集約する。そしてそれらを一元的に管理することによって、高齢者が容易に仕事に就き、多様で無理のない働き方ができるよう支援する「マッチングサービス提供型プラットフォーム」の整備などが求められる。

学生など現役世代の就活(会社に入る就職活動)のように、定年後高齢者の就活(仕事に就く就労活動)が日本の慣習になるようにできないか。そのためには先ず、定年後高齢者向けの仕事を俯瞰できる標準的な仕事分類表を策定する。次に仕事分類表に基づき、多様な働き方を含む就労ガイドを制作し、定年後高齢者の就労活動における共通言語として普及させることが必要ではないか。そして究極的には全ての会社が、定年退職を迎える全ての社員に就労ガイドを配布することが慣習化される社会の実現を期待したいものである。

◆◆◆「高齢者就労関連サイト」紹介コーナー◆◆◆

■高齢者雇用の総合誌『エルダー』のご紹介

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構が発行する高齢者雇用の総合誌「エルダー」に関する情報は、下記の URL からご覧いただけます。

[啓発誌「エルダー」 | 独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 \(jeed.go.jp\)](http://jeed.go.jp)

◆◆◆

配信先メールアドレスの変更をご希望の方、また配信が不要な方は高齢者活躍支援協議会・事務局までご連絡ください。

本通信に対するご意見やご感想をお聞かせください。

また、本通信に掲載してほしい情報等がありましたら、ぜひご連絡ください。

一般社団法人高齢者活躍支援協議会

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町 17-2 兜町第 6 葉山ビル 4 階

TEL: 03-6555-3926

HP: <http://www.agenomics.org>
